

全教・日高教・兵庫教組・兵高教組救援活動に全力!!

未曾有の大災害になった阪神大震災に対する救援活動に取り組むため、全教・日高教は現地に救援対策本部を設置。兵庫教組、兵高教組とともに、全教・日高教・全教共済からの常駐体制をとって、全力で救援にあたっています。

全教の具体的救援の取組として①一日分の賃金の拠出②救援ボランティアの派遣③被災受験生のホームスティ④共済加入被災者への給付、電話法律相談の開設など積極的な活動を進めています。

また、これらの活動には、教組共闘からの仲間からも積極的な参加があり、共同行動が広がっています。さらに、兵庫教組・兵高教組は、刻々と変わる被災地の要求、住民、子ども達の要求に応えるため、国・県の責任で救済させることを基本に対県交渉を強めています。

連日ボランティアが被災地に入る

2/1-15名、2/2-15名、2/3-13名

現地对策本部では、連日、ボランティア派遣に対応しています。1月28日～29日に取り組まれた救援ボランティア300名の参加に続き、30日(15名)、2月1日(15名)、2日にも(15名)、2日にも(15名)、3日(13名)と各地から来られています。特に、横浜市立高教組からは連日複数回の参加があり、現地も励まされています。

地震発生から半月が経過する中で、ボランティア活動に参加した教職員から、「中小企業に就職している卒業生が、職を失っている。大変な惨状だ。行政に働きかけ、措置をとらせる必要がある。」(長野)「避難市民に市からの情報が、きちんと入っているのか心配。情報ボランティア組織との有効な協力、話し合いの必要性を感じる。」(京都)など、様々な要望、感想が寄せられています。

まごころこめて、あったかい炊き出しを

各教組で、炊き出しの準備がなされています。被災地では、あったかい手作りの料理、新鮮な野菜などが特に不足しており、こころづくしを届けることにしています。

- ・2/4 大教組東大阪支部長田工業高校の被災者へ
カレー (450食)
- ・2/8 大教組泉北教組 対象場所未定
ブタ汁 (朝夕各300食)
- ・2/11 京教組婦人部 西宮地区予定
ブタ汁 (500食)

全教(全教滋賀)の取り組み広がる

全教滋賀教組では、88職場から義援金が300万円近くになっています。短期間で大きな成果です。また、被災地の学

校へ、激励の手紙やメッセージを子どもたちが取り組んでいます。ホームスティ第1号(神戸市須磨区の受験生)も決まっています。また、兵庫教組宝塚教組の組合員も高校受験生(垂水区)と親御さんを一泊させることになりました。そのほか3名も受け入れています。子どもと教育を守り、被災者救援に全力投球しています。

兵庫両教組大奮闘!

兵高教組——安全確保のための予算措置、高校入試会場の確保、授業再開にあたっての教職員との合意の尊重、代替勤務問題などで県教委交渉を展開、取り組みを強めています。

また、平日ボランティアの受入を旺盛に取り組んでいます
兵庫教組——被害地域等の中学生の進路保障、学校再開のためにも仮設住宅の早急な建設、教員定数の前年度確保、被災地加配、被災地での35人学級等を県教委交渉で強く要望しています。また、組合員宅の片付け・単組書記局の整備などを休日を利用して旺盛に取り組んでいます。

生きているだけで幸せ!

——死んでいった人たちのためにも生きたい——

尼崎市地区で大きな被害を受けた武庫中では、学年通信を発行。教職員と子どもたちを励ましています。阪神大震災を体験した中学生は、作文で「五日も埋まっていたおじいさんが救助された。本当に良かったと思う今は、生きているだけで幸せだと思っている。神戸市長田区などでは、いっぱい死んだ。その人たちのためにもぼくは生きたい。」と心のいたみと想いを綴っています。



2月4日 集中救援行動に全国から300名が参加！

未曾有の大災害になった阪神大震災から19日目の2月4日、第2次集中救援行動が展開され、近畿ブロックを中心に全国から300名余が参加しました。午前9時には現地救援対策本部のある尼崎教育会館と神戸の兵庫高教組会館に、救援物資運搬班と炊き出し班を除く約150名が結集しました。

救援活動は、神戸・西宮市内の小・中学校の避難所支援、教職員の倒壊家屋の片付け、東灘地域の救援調査活動、救援学用品の運搬、炊き出しの実施（長田工業高校・市立盲学校）などが主な行動でした。

全教救援隊の腕章をまいた参加者は、それぞれ班に分かれ、一刻も早く被災者の元へとの想いをもって散っていきました。

近ブロ全退教、現地本部を激励

近畿ブロックの全退教代表と滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪の退教協・高退教、京都退婦教の代表9名が現地对策本部を訪れ、昼夜をわかつた奮闘している常駐者と両教組を激励しました。また、それぞれの組織からこころ暖まる見舞金も寄せられました。

全国の高校生へ救援アピール

2月1日、尼崎市内の高校生徒会が、全国の高校生と生徒会へ、阪神大震災救援の（お願い）アピールを出しました。

被災高校生が一日も早く立ち直り、明るい高校生活を送るため、支援活動や援助を訴えています。

全国の教職員・高校生の応援が求められています。

<連絡先> 尼崎市立尼崎東高等学校生徒会
住所 尼崎市食満5丁目22番1号
電話 06-491-7000

<連絡先> 兵庫県立尼崎西高等学校生徒会
住所 尼崎市大島2丁目34番1号
電話 06-471-5021

障害児・者支援センターを設置

－ 福祉と教育の両面で近ブロ各県に窓口 －

障害児学校の教職員は、独自に連絡会合同対策本部と「支援センター」を設置しています。障害児・者の家庭の保護・看護は見落とされるきらいがあり、きめこまかい対応が求められています。そのため、各県に福祉と教育の両面で「相談窓口」も設けています。西宮、垂水、阪神の各養護学校の避難生活が続く中、施設への受け入れ、紹介などに取り組み、友生養護学校へは、大阪府障

全国の仲間のみなさんありがとう

==友情と連帯に胸が熱くなる思いです==

<神戸市立高教組がお礼>

神戸市立高教組は2月4日「神戸市高ニュース」の特集で次の通り「ボランティアに感謝」のこたばを述べています。

「たくさんの救援物資やカンパ、励ましの言葉をいただき、ありがとうございます。また、連日のように来られる多くのボランティアの先生方、本当にありがとうございます。みなさまのあたたかいご支援に、毎日、胸をアツくしております。

本当に感謝の気持ちで一杯です。今、私たちは避難所の職員として頑張っていると同時に、学校再開に向けて奮闘しています。また生徒たちも被災しながらも前向きに頑張っています。

みなさまのご厚情に感謝しつつ、今後ともご支援下さいますようお願い申し上げます」

<職場からの声>

<市立盲学校（中央区）>

2月4日（土）、300食もの炊き出しをしていただきありがとうございました。

あたたかい食事はたいへんありがたいです。

<市立摩耶兵庫高校（中央区）>

毎日のように来られるボランティアに大感激。おかげさまで卒業式の準備もすすんでいます。

<市立神戸商業高校（東灘区）>

夜行で来られて、夜行で帰られる先生方ありがとう

ございました。あいさつもできず大変失礼しました。

<神戸市好徳幼稚園（東灘区）>

女手ばかりで困っていた復旧作業がはかどりました。

市障教が中心に味噌汁、焼き肉300食の「炊き出し隊」、物資を届ける救援隊、さらに住宅困窮者への住宅情報などにとりくみがばっています。

近畿ブロック2日目(2/5)も踏んばる!

大教組・和教組・京教組・全教滋賀ぞくぞく駆けつける

2月5日、被災地救援集中行動の第2日目を取り組まれました。大教組の80名余をはじめ、和歌山、京都、滋賀などの県・高組織から、続々と教職員が駆けつけ、100名にのぼるボランティアが激励と支援のために地域や避難場所になっている小・中・高へ入りました。前日からの宿泊者を含めると、227名が積極的な行動を展開しました。

これで、1〜2次行動の参加者は800名に達しようとしています。全国的な募金活動の取り組みと合わせ、活発な取り組みとなっています。

心動かされ、少しでも役立ちたい!

2月5日、午後には到着、阪神大震災救援のため、現地入りした長野高教組の3名のグループの一人の女性教職員の方に、ボランティア活動に参加する上での気持ちを聞かせてもらいました。3名は、長田地区・長田工業高校に2泊3日のボランティアに入ります。

同僚の先生の「神戸に行くぞ!!」の強い呼びかけに心を動かされ、少しでも力になれたらと思い、参加しました。何ができるかわかりませんが、できるだけのことをしたいと思っています。

< 長野高教組・吉武 恵子 >



学用品を
提供して下さい~

▶ 受け入れ期間

~ 2月16日まで

(午前9時~午後8時30分)

※ 品目と数量の明記、
大量搬入の場合、到着時刻
の連絡。

▶ 受け入れ先(郵送可)

〒650 神戸市中央区

楠町4-1-1

市立中央体育館内

「学用品受入センター」

TEL 078-341-7972・3

FAX 078-341-7974

こころあたたまる コーヒー店の話

神戸市東灘区の御影の7つ街(本町・石町、中町他)に入った京教組の救援隊から、こころあたたまるいい話がとびこんできました。

6人のグループが、みぞれまじりの中、寒風に冷えた身体をいやそうと倒壊をまぬがれたコーヒー店に立ち寄ったときのことです。「全教救援隊」の腕章を見た、店の主人が「ボランティアに来ていただいたことで感謝しています。代金はいただけません。」とのこと。それを聞いた一同、胸がキューンと熱くなり、大いに励まされ、救援と行政への働きかけを強める次の行動に入りました。

全教救援隊が区長に要請

被災状況聞き取り調査に入った救援隊が「緊急要請書」を作成、区長要請行動を行いました

東灘区長様 緊急要請 全教救援隊 1995年2月5日

2月4、5日の両日にかけて、御影中町および住吉町西部に被災状況調査に入りました。避難所に避難せずに個人住宅に居住しておられる方、あるいはガレージ車などで、個人的に危険な家屋から避難されている方が多数おられます。調査の結果、こうした方々の行政からの働きかけ(情報の提供、救護物資等の支給など)がほとんど皆無であるということがわかりました。とり急ぎ以下の項目について適切な措置をお願いいたします。

1. 行政の責任で、実態および要請の調査をして下さい。
2. ようす相談引き受けの窓口を作り、ボランティア派遣などで早急な対応をして下さい。
3. 水、ガスなどの復旧のメドを地域ごとに住民に知らせて下さい。
4. 家屋撤去の時期・方法を具体的に知らせて下さい。業者に従って、個人的に撤去した場合の補償について、早急に明らかにして下さい。
5. 個人住宅の危険査定をして下さい。
手帳と家屋の危険度について、早急に知らせたい。
6. 隣家が倒壊し、お水が漏れている場合の対応を速やかに対応をお願いします。
7. 家屋内の被害についても、り災証明を出して下さい。
8. 入浴に関する情報(場所・時間)を細かに伝えて下さい。
9. 半壊家屋から運び出した荷物の一時的預り場所を提供・紹介して下さい。
10. 公報が、地域住民全員に手配するようにして下さい。(新聞折り込み・全戸配布)
11. 避難所だけでなく、自治しようとしている方々にも、物資・情報の提供をお願いします。

—57—

全国からの 義援金 1800万円を県・市教委へ！

2月11日、全教は全国の教職員や教職員組合から寄せられた義援金の内、1800万円を兵庫県、神戸市教委、西宮市教委、兵庫県障害者連絡協議会などに届けました。

義援金の手渡しの行動には、全教本部の吉田中央執行委員、兵庫教組の部司委員長、兵庫高教組の西本書記長、日高教の堀口書記が参加。

参加者は、被災の復旧に連日奮闘している行政の担当者らを激励するとともに、今後の学校再開に向けての見通しや課題について、懇談を行いました。

懇談の中では、今後の学校再開に向けて、被災者の仮設住宅の早期建

設を含む住居の確定が、不可欠の課題となっていることが確認されました。また、児童・生徒の被災地域からの転出が、2万3000人になっているという事態をふまえ、学級の弾力的な編成と弾力的な教職員の配置についても新年度を迎えるにあたって重要な課題となることを強調しました。

また、懇談の中では、神戸市内の避難者18万人の内、10万人を学校が受け入れているように、被災者の救援にたいする学校と教職員の果たしている重要な役割が明らかになりました。

全国の高校生のみなさん 声援・支援ありがとう！

全国の高校生のみなさん、数々の声援・支援本当にありがとうございます。それぞれの学校での募金活動などにあたたまる話しか神戸まで聞こえてきます。

特に、名古屋市立高校の学用品・辞書のにぎやかや秋田県立面目高校土木科のみなさんの励ましの作文集、本当にありがとうございます。

市高のみなさん——。

名古屋市立高の生徒会が集めてくれた物は、善倉高か窓口になっています。面目高校の作文集は各校に配布します。ご活用下さい。

また尼崎の生徒会も全国の高校生にアピールも出しています。

早々の気遣い

ありがとうございます

ここでご紹介するのは、神戸市東灘区にある御影工業高校の佐田恵三先生が友人に、被災後の状況や学校の様子、担任としての仕事などを知らせるためにつづった文章です。ご本人から「実情を知らせるために、いろいろな形で活用してほしい」と市立高教組に要望がありました。本部ニュースで数回にわたり掲載させていただきます。

謹啓

早々のお気遣いありがとうございます。地震が起こった直後、部屋の中は、本だな、冷蔵庫、テレビ、食器などがひっくり返り、食器や電気などあらゆるガラスものが割れ、凄まじい様子になっておりましたがやっと部屋は、落ち着きを取り戻してきました。

しかし、神戸の街は悲惨な状況です。ビルが倒れ、家が倒れ、高速道路が落ち電車は脱線し、火事跡は延々と広がり、道は至る所コンクリートが隆起し、写真やテレビで見るよりもずっとずっとひどい有様です。そして、ほとんどの地域が水もガスも通じておりません。

私は、その神戸の街中を自転車で走り回っておりますが、頭の上に何か落ちてこないかとひやひやしています。そしていつもパトカーや消防車や自衛隊車の緊急自動車のサイレンがなり響いております。道路は車とバイクと自動車の群れです。主要な幹線道路は使えないので、大渋滞になっており、その隙間をバイクや自転車が交通法規を全く無視して走っておりますので、危なくて仕方ありません。もちろん、歩いている人もたくさんいるのですが。

皆に共通して言えるのは、ネクタイをして歩いている人がほとんど居ないことです。老若男女がジーンズをはき、帽子やヘルメットを被り、

リュックサックを担いでいます。それは、電車の中でも同じ風景です。私も学校へ行くときでもリュックを背負い、ヘルメットを被り、ジャンパーの下トレーナーには、何時何があるか分からなくて、「明石市佐田恵三」と大きく背中に書き、その下に電話番号を書いています。通勤するのも命懸けなのです。次にも大きな余震が在って、そのときまた倒壊しそうな建物の側にいたら、きっと命も危ないと思います。

(その2に続く)



御影工高(東灘)

佐田恵三先生の手紙

その1

生徒からの電話

みんな、素直な子に



六甲小学校職員室で避難者の対応で奮闘する全教教団

ころをなくしたら人間ではない、教師ではないと思います。

残念ながら、放火をしたり盗みをしたりする人もたくさんいます。しかし、自分の身をかえりみず近所の人を助けたり、今までの仕打ちを忘れ、ボランティアに励む在日の人達もいます。街の状態を見ると、くじけそうになるのですが、「はじめにころありき」だと、自分に言い聞かせています。私より大変な人達はたくさんいるのです。

「生きてる」ことが
本当に嬉しかった

さて、生徒たちですか、今現在、学校全体では、2人の生徒が亡くなりました。そのうちの1人は3年生で、その彼が1年生と3年生で、国語を担当していました。やっと就職が決まり、あと少しで卒業というところでした。2学期にその生徒が、東洋大学の「現代学生百人一首」に応募した作品は、

内定し嬉しいけれど本心は遊ぶぞ

まで、10歳になるまで20歳になるまで、遊ぶことはできませんでした。残念です。人なつこい、可愛い生徒でした。地震とほぼ同時に家が崩れての圧死で即死だったため、苦しまずに逝ったことがせめてもの救いです。

私は、今、1年生の担任ですが、私の学校は全県一区で、兵庫県ならどこからでも通うことができます。だから、地震後、全員の生死を確認するのが大変でした。交通は麻痺していますし、電話はほとんど通じないのです。外からかけるほうが通じると聞きましたので、交通が動き出すまでは、夜遅くまで、ずっとだれもこない駅のプラットフォームの公衆電話から、生徒の家にかけ続けました。生徒たちと「生きてるか」と電話をするのは、当たり前のことで、始めてでした。「先生、家こわれそうやけど、みんな元気や、先生大丈夫か」こういう言葉を何度も何度も聞きました。今後の生活を考える

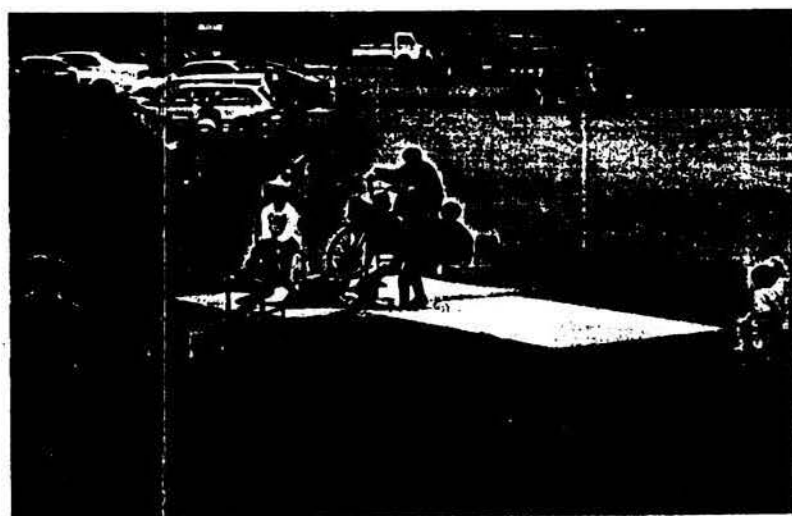
ととてもこわいのですが、そのときは「生きてる」ということが、本当に嬉しかったです。

家を壊された生徒も何人かいて、それぞれ家の近くの避難所へいるか親戚や知人の家に疎開しています。遠くの県、京都や奈良にまで疎開している生徒もいます。

3年Aクラスの生徒の全員の無事が確認されたのは、3日後でした。

「みんな元気や

先生、大丈夫か」



神戸商業高校グラウンド

電話が通じたり、避難所からかけてくれた生徒たちは、みんな素直な子になっていました。「頑張りよ」それしか言えないのですが、その言葉を聞いて、「先生ありがとう、大丈夫や」泣きながら言ってくれた子もいました。私の声を聞いて、緊張が解けたのか、電話口で啜咽をあげ

る子もいました。「ありがとうございます」と何度も何度も繰り返す子もいました。全員無事、と言うことが分かったときには、ほんと胸をなで下ろすなんていうものではなく、本当に腰が抜けそうになりました。その場にへたりこんでしまったのです。

子どもたちに役立てて！

全国教研での義援金で、画材セット、通学シューズなど

全教本部は2月12日、ダンボール約50箱、トラック1台分の学用品を神戸市学用品受け入れセンターに届けました。

この学用品は、全国教育研究集会で参加者から寄せられた阪神大震災義援金266万円余で購入したもので内訳は、画材セット500、裁縫セット500、通学シューズ500足、スポーツバッグ500個など。

センターに集められた学用品等は学校の被災状況や要望にそって、被災した学校に配分されることになっています。

この学用品の手渡しには、全教本部より吉田中執行委員、神戸市立

高教組より川崎執行委員長の代表が参加。神戸市立中央体育館の高橋館長に学用品提供の趣旨を説明し、「被災を受けた学校の子どもたちに役立ててください」との要望を伝え

ました。学用品購入に立ち会った職場の女性からは、「このように同じものを何百とまとめて送ってもらえると、学校への配分がやりやすく大変なすかります」と褒められました。



学用品受け入れセンターへ、画材セットや通学シューズなどを手渡す代表

266万円分の学用品送る

あどけない子どもの姿、辛い...

御影工高(東灘)

佐田憲三先生の手紙

(その1)

通勤も困っています。私の家は、現在は明石市の西の端、学校は神戸市の東の端(高速道路が横倒しになったところの近くです)なので、三ノ宮を経由しないと行けないのですが、しかし、その三ノ宮が一番危険な場所なので、交通手段がありません。姫路の方から大きく迂回したコースを取って電車で通ったり、自転車を使ったり、船で神戸港まで行ったり、電車が通っているところまでとあえず行って歩いたり、車以外の(車・バイク箱宇部復興の)魔になるだけなので)あらゆる方法を取って試しましたが、家から学校までの片道は、最低4時間、一番かかった時で8時間半もかかりました。

そんな思いをしてまで、通勤している学校ですが、授業をしたり、生徒の面倒を見ているわけではありません。私が、地震後、一番最初に学

習作業でした。最初の方は、地震発生後始めて生で見た神戸の街の崩壊にショックを受け、学校の中の崩壊にショックを受け、体育館に1000人を越える避難民の人々が居るのにショックを受け、そして、教室が30体以上の方々の遺体安置所になっているのです。信じられない光景です。

私が、棺桶に入れるのを手伝った方は、40才ぐらいの男の方でしたが、倒れ子どもらしき5才ぐらいの女の子が、「早く起きよ」とあどけなく言っている光景に出くわしました。辛かったです。棺桶にいれるときも。服は使えるので裸にして、たった一枚の毛布でくるんであげた上に、線香を何本かともしてあげるだけなのです。しかし、まだこの方は良い方でした。変な具合に死後硬直をしてしまった人は、棺桶に入らないので、何処で死んでいるだ

けでした。その光景は、何体も何体もあるのです。

また、体育館には1000人程の避難民の方々がおりました。なき声がとぎれることなく、どこかで聞こえていました。今は、職員室もやっと片付けましたが、最初の日は、机はひっくり返り、蛍光灯はわれ、本棚は倒壊し、足の踏み場はありませんでした。避難民の人達も少しは減りましたが、いつこの体育館を出られるのかわかりません。出ていくあてもないのです。

そして、この避難民の人々のお世話もすべて私たちがやっております。もちろん順番で宿直もあります。食事の世話、水の搬入、衛生面の配慮、支援物資の搬入、行方不明を探しに来た人への対応、ありとあらゆることが教師の仕事です。だれか過労死するのではないかと、冗談ではなく心配です。

(つづく)

阪神大震災に負けないで 西宮全教

~~~~ 川西教組、京都市教組、長野高教組も炊き出しで参加 ~~~~

2月11日に、今なお1000人の被災者が生活している西宮市立中央体育館で、全教西宮教組主催の「阪神大震災に負けない市民コンサート」が開かれました。コンサートでは、全教西宮の呼び掛けに応じた4つの合唱団やバンドが演奏を行い、被災者を大いに励ました。また川西教組も同会場で、コーヒーとホットカルピスのサービス。京都市教組婦人部や長野高教組も、ぶた汁や焼き鳥、野菜菜、リングを持ち寄りこの支援行動に参加、たいへん被災者に喜ばれました。

会場周辺にチラシやハンドマイクで、コンサートの宣伝をすると100人あまりの聴衆が集まりました。

阪神センター合唱団は、「陽気な人生を」を歌唱指導、聴衆と一体となって合唱しました。宝塚和太鼓の会(「キラリ」)の「ぶち合わせ太鼓」の力強いひびきに、被災者から自然に手拍子がおこりました。

フィリピン人のボーカルを中心に

したトリオ「ラ・アミーゴ」は、タガログ語で「息子」を歌い、聴衆の関心を集めました。

最後に出演した寝屋川の合唱団「フーガ」のメンバーの一人は、「中川大阪府知事が、震災直後に「(被災者は)コメと台所があれば、自分らで炊き出しをすればいいのに、その気がない」などと暴言を吐きました。大阪に住む者として怒りを感じ

ます」と語り、また、「湾岸戦争では、1兆4000億円もの金をポンと日本政府は出した。1兆4000億円もの金があれば、被災された家庭ごとに1000万円も配れる」と強調し、「そうしない政治に責任がある」との訴えに対し、被災者から大きな拍手が起こりました。

こうした訴えが、被災者に共感してむかえられている背景には、被災者や国民不在の政治が相変わらず行なわれている現状に対して、たくさんの方の不満や怒りが渦巻いていると考えられます。被災者を励まし支援する行動とともに、国や県などの行政に対して強く働きかけていく必要があります。

市民励ますコンサート開く

## 先生！学校で勉強しているほうがええわ

御影工高(東灘)

佐田憲三先生の手紙

の3

しかし、大変なのは、実はこれからなのです。街があつた状態では、何時全員が登校できて、授業を始められるのか、見当もつきません。生徒たちから、日に何人も何人も電話がかかってくるが、私が電話を取れたときには、「先生、学校で勉強してるほうがええわ」と、みんなが同じようなことを口にします。でも、神戸市内で、ほとんど水とガスがきいていない状態で、交通網も大事なところが通っていない状態で、学校が普段どおりに再開できるはずありません。登校しても体育館を始め、全クラスが使える教室すらないのですから。

私自身、この先のことを考えると頭がいたくなるのに、家をなくして避難民生活を送っている生徒たちはどんなにか心細いでしょう。

学校も片付けや避難民の人達の世

話で大変ですが、私は、今避難民生活をしている生徒のところを回っています。話をし、いるものがあれば届けてあげています。水もガスも出ていないところがほとんどなので、可能な限り私の家に呼んで、風呂にいらしてあげ、あたたかい物を食べさせてあげようと思います。テレビ、ラジオの報道もだんだん減っているようですが、大変なのはこれからです。鉛筆一本持って逃げられなかった生徒たちもいます。できる限りのことをしてあげようと思います。

募金もたくさん集まっているようですが、私の生徒たちのところへは1円もきていないのが、現状です。

私自身、神戸には地震なんて来ないと思っていました。しかし、現実にはやってきて一瞬のうちに神戸を地獄に変えてしまいました。この地獄が何時まで続くのでしょうか。早

く、普通の生活が、普通の授業がしたいと思います。

しかし、あと地震が2時間遅かったら私は高速で走る電車の中です。多分生きてはいなかったでしょう。そう思うと、大事な命です。有効に使おうと思います。

家内には、子どもを連れて名古屋の里に帰るように話をしましたが、「私も先生の嫁だから、生徒の面倒を見る」といって、まだ余震の続く明石に残っています。とりえず家族3人頑張っていこうと思います。

とりとめもないことを長々と書きました。また、最初は、自棄でかいていたのですが、とても続けるような字は書けませんので、本意ではなく失礼だと存じますが、乱文のワープロ書きで、ご勘弁くださいませ。地震には、くれぐれも気をつけてご自愛くださいませ。右、御礼まで。

# 国・自治体は責任もって配給食の改善を

2月11、12日の2日間、全教栄養職員部の9名（都教組、京教組、大教組）は、長田工業高校と周辺地域、および西灘地域の幼稚園や児童館などの避難場所について、被災者の食生活調査を行いました。調査の目的は、被災者の食生活の実態とその問題点をつかみ、改善に向けた意見書を作成し、行政などに働きかけることにあります。



## 全教栄養職員部現地調査

|    | 調査した避難所の状況・問題点                                                                               | 改善点                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 朝食 | パン（主に菓子パン、時々調理パン。また、期限切れぎりぎりの物が多い）と冷たい牛乳                                                     | ①牛乳は、時々ヨーグルトに替えさせる。温めた牛乳を出させる。<br>②古いパンはやめさせる。<br>③人数の少ない避難所にトースターなどを出し食パンも入れさせる。                                                                                                                                                                           |
| 夕食 | おにぎり2ヶと漬物、ゆで卵など。<br>または、お弁当（唐揚げ、卵焼き、塩鮭、コロッケ、フライ、ウインナーなど）<br>年配の方は、お弁当の中身が揚げ物やウインナー等では食べられない。 | 《救援本部（自治体）の中に食に、についての組織を早急につくり、その上で》<br>④調理できるように道具（プロパンやコンロ、鍋など）を行政でそろえさせる。<br>⑤学校給食設備を使えるようにし、子どもへの給食だけでなく避難者にも出せるようにさせる。<br>⑥避難所を分け、学校栄養士、調理員等に受け持たせ、火が使えるところには献立や、食事、調理の指導に当たらせる。<br>⑦缶詰類が数多く届けられているが、そのままでは食べきれない所が多いので、缶詰を使ってできる献立調理のメモを出すような心配りをさせる。 |

※昼食についても、ボランティアの炊き出しに頼っているか、朝食の残りもの。改善点は上記と同じ。

### 全教の救援活動として、今直ぐできること

- ①ヨーグルトなどの差し入れ。
- ②火が使える所には、青菜、豆腐、油揚げ、しいたけなどの差し入れ。おでん等ができれば所には、練り製品などの差し入れなど
- ③炊き出し体制の強化を！（調理器具、プロパンガスの寄付も含めて）

子ども  
高齢者

## 栄養不足に不安

## 栄養不足、健康に不安

すべての栄養素が不足している。特に体の調節機能を高め、抵抗力や成長を促すのに大切なビタミン類、鉄、カルシウムなどの微量栄養素、蛋白質の不足は大きく問題。

すでに1ヶ月が経とうとしておりこのまま長期になるならば、成長期にある子ども、老人にとっては特に問題である。(成長に異常をおこすことも考えられるし、抵抗力が弱くなっているため病気にかかりやすくなぜなど広がりやすい、また、皮膚の疾患にかかりやすい)

## 食生活にもストレス

また、精神的にも生活全体から受けたストレスに加え、食生活の面からも毎日がまんまの連続だといえる。それは「みなさんが、応援して下さい」

るので賛成は言えませんが」とか、「言ったらきりがありませんね」などの言葉に現れている。

これらの点で、食事の中身もそうであるが、精神的にもボランティアの炊き出しによって解消されている面が大きい(「炊き出しのニュースを聞いて、いくつかの炊き出しをまわって、もらっている」との言葉があった)。

## 胃が小さくなった…

調査で実際にあがった声を抜粋すると、

○「胃が小さくなった気がする」

(4、5年生の女子)

○「昨日、お腹が痛くなって点滴した(いままではなかった)」(中学生男子)

○「揚げ物が多く、とても食べれない。夕食のご飯を残して、朝お湯をもらって食べる」(年配の方)

○「オレたちは、米を食べてきたので、パンだけでは生きていけない(朝、夕食ともにパンだった)」  
○「拒食症ぎみになってしまう」「残ったおにぎりなどを、おかゆやおじやにしているが毎日では…」など、心身ともに疲れている姿が浮かび上がっている。

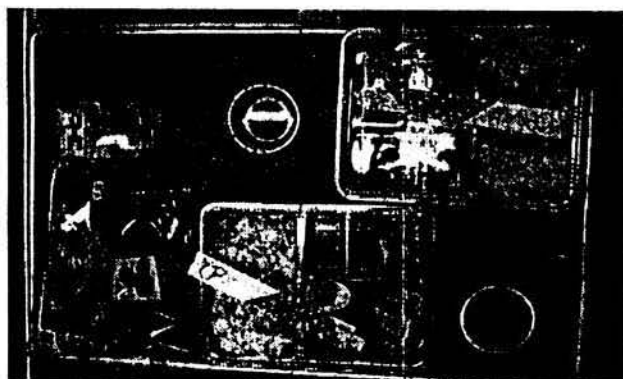
## 避難所外の被災者は

また、小さい子どもや病人がいる家族で、避難所に避難していない人たちがいる。その人たちは救援物資が届かないので、「コンビニなどで買って食べている」ということ。ちょうど聞き取りをしていた方も、障害をもった子どもがいて、「家には入れるし、電気も来たので家に帰った。物資はもらいに行っている。近くの家にも避難していない人がいるが、もらいに行っておらず大変そう…」とのことだった。

◆ 今月11日に支給された各避難所の食事 ◆

| 避難所名             | 朝食               | 昼食              | 夕食                  | 援助物資                                        |
|------------------|------------------|-----------------|---------------------|---------------------------------------------|
| 川西市<br>(市総合体育館)  | 菓子パン2個、ジュース      | 鶏の内弁当、お茶        | 鶏の内弁当、お茶            | なし                                          |
| 伊丹市<br>(市立緑丘小)   | 菓子パン2個、牛乳        | カップめん、野菜ジュース、お茶 | おにぎり2個、缶詰(肉や魚)      | 甘栗のバック詰め、フルーツ缶詰                             |
| 宝塚市<br>(西公民館)    | 食パン1枚、牛乳、ジャム、バター | なし              | おにぎり1個、サラダ          | ジュース、カップスープ、カップめん、果物缶詰、缶コーヒー、缶詰(肉)、漬物、味付けのり |
| 西宮市<br>(中央体育館別館) | ロールパン2個、ジャム、バター  | なし              | おにぎり2個              | ミネラルウォーター、レトルトカレー、果物ジュース                    |
| 芦屋市<br>(市立宮川小)   | 菓子パン2個、牛乳        | おにぎり2個          | ご飯バック、おかず(ジャケなど)    | お茶                                          |
| 神戸市<br>(市立魚崎小)   | 菓子パン2個、ジュース      | なし              | おにぎり2個、セット(ライシナーなど) | 野菜缶スープ                                      |
| 北淡町              | 菓子パン1個           | おにぎり2個          | 缶詰かお惣菜              | なし                                          |

(注) 援助物資は自治体に送られたものを配布。ボランティアによる炊き出しは含まない



毎日新聞  
2月14日(火曜日)

7市町比較

## 避難所ごとに格差



◎比較調査で質、量とも最も豊富な川西市の食事◎被災者から不満の多い西宮市の食事

# 現地の要望に根ざした救援活動を展開!

震災直後の全教・日高教の救援物資の搬入をかわぎりに、近畿ブロックを中心とした救援活動は全教組合員だけでなく、「連合」組合員や純中立、未組合員、組合員の家族・友人・高校生・大学生の参加も含め、延べ2千人を軽く越えるまでになっています。地域的にも北海道から長崎まで、全国的な広がりを見せています。救援活動は、被災者の状況と要求の変化を受け止めながらいくつかの区切りをもって取り組まれています。

- ①当初は、水とポリバケツと食料を、そして下着をタオルを靴下を。
- ②さらには、「風呂を住居を温かい食べ物野菜を」という要求に応え、行政もボランティアグループも手をつけていない、避難所周辺の人たちにも救援を広げてきました。
- ③事態が長期化していくなかで、救援とともに、行政の責任ある対応を求める調査要求活動をすすめることが求められています。今「政府の責任で、被災住民の生活とくらし、子どもと教育を守れ。住居をすみやかに確保せよ」の署名運動を全国的に取り組むことが重要で。

## <救援活動の現在の課題>

政府・自治体に被災者の切実な要求を実現する取り組みをすすめるとともに、行政的遅れや行政のすき間を埋める救援活動に取り組むことです。なやみ、不安を持っている人たちに心を寄せて、個別的、具体的要求に工夫のある救援活動をすすめることが求められています。

全日本教職員組合

1995年2月

全日本教職員組合 三上 誠  
中央執行委員長  
兵庫教職員組合 藤野 敏夫  
執行委員長

## 教材プリント集寄贈について

阪神北上沿のていりわねる震度7の兵庫県南部地震から約1ヶ月たちました。各学校で教育活動の再開や復興を目指してさまざまな努力がなされていることに深く敬意を表するものです。  
全日本教職員組合(全教)は、尼崎市に被災地対策本部を設置し、全国からの人的・物的支援など、多様な取り組みを進めてきました。兵庫教職員組合は、県下や全国の仲間からたくさんのご支援をいただき、学校訪問や報告の交換、炊き出しや下着の配布、市民コンサートなど、さまざまな活動・支援活動に取り組んできました。  
この中で、各現場から「学校を再開したいがプリントも何もない」とか、「避難所としての活動が同じで教材研究の時間もない」といった声が寄せられました。  
そこで、全国から寄せられた義援金をもとに、教材出版で有名な清風堂・フォーラムA社の2社のご厚意と、各教員からの賛同をいただき、下記プリント集を被災地の学校に寄贈することになりました。  
これらの教材集を教育活動の一助として立てていただければ幸いです。ご賛同下さるようお願いいたします。

| ＜教材プリント集の目録＞              |      |
|---------------------------|------|
| 1. 漢字習熟プリント(小学1～6年生)      | (6冊) |
| 2. さんすう文章算習熟プリント(低・中・高学年) | (3冊) |
| 3. わかってできる算数(小学1～6年生)     | (6冊) |
| 4. 算数プリント(小学2～6年生)        | (3冊) |
| 計 20冊                     |      |

## 神戸被災地小学校76校に教材プリント配布

2月18日、19日の両日に、近プロを中心とした160名の教職員により、1～6年用の国・算プリントを20冊ずつ配布して頂きました。

この取り組みは神戸へ行ったボランティアが「自習するにも、宿題を出すにも教材が足りない。プリントが欲しい」との要望を受け、大阪の吹田教組がいち早くプリントを持っていったことに始まります。

対策本部としても、被災地小学校への教材配布が必要と判断し、出版会社(清風堂・フォーラムA)の協力で費用を半額にしていたプリント20冊を76校に手渡すことになりました。

おおむねプリントは喜ばれ、さらに学校・避難所の実態も聞き取ってきました。

## この間の動き

- 2/11(土) 178名が参加。全教西宮励ましコンサートを中心とした合同企画や3か所での炊き出し。民医連との共同地域救援活動。全教栄養職員部健康調査。組合員宅
- 2/12(日) 前日に引き続き、32名が新たに参加。ボランティア活動は前日に続き富岡。
- 2/13(月) 京都、大阪、長崎など7名参加。六甲小、北野小のボランティア活動。
- 2/14(火) 山口、大阪、京都、東京、長野から5名参加。北野小、神戸商業高、摩耶兵庫高、鷹取中、本山第2小でボランティア活動。
- 2/15(水) 滋賀、大阪、京都、東京、長野から12名参加。地域聞き取り調査と神戸商業高、摩耶兵庫高、福住小、北野小のボランティア活動に参加。
- 2/16(木) 埼玉から12名の参加をはじめ、高知、大阪、愛知、京都、山口、愛知の学生など、25名参加。
- 2/17(金) 滋賀、和歌山、埼玉、東京と学生2名などが参加。北野小、神戸商業高、六甲小、摩耶兵庫高の救援活動に参加。
- 2/18(土) 大阪2名、大阪市教10名をはじめ、京都、京都府高、東京、滋賀高など、そして宮城高教組、山梨高教組のなかまも参加。参加者数は40名に及び、教材プリントを灘区の11校に配布。
- 2/19(日) 大阪府障教50名参加を初め、大阪市教、京教組、和教組、秋田高教組、神障教組など計119名が参加。神戸市内の全小学校に教材プリントを配布。西灘小での「青空市」(野菜等の販売)に参加。
- 2/20(月) 京教組1名、大阪府高2名が参加。北野小でボランティア活動。教材プリント配布先の実態調査が多数送られてくる。
- 2/21(火) 和教組23名、都教組、兵高教組、大退教6名、奈良教育大など32名参加。被爆者救援、赤塚山高校図書整理、芦屋市大原集会所炊き出し、北野中、鷹取中、神戸商業で泊まりのボランティア活動。中ノ目副委員長神戸入り。岐阜教組、御影工業高校でフランクフルト、もち、焼鳥等炊き出し。～22日 和教組、芦屋市大原集会所でカレー200食。

## 今後の日程

2月25～26日

●兵庫原水協からの要請による、被爆者個別訪問。

●小・中・高へ泊り訪問。

2月26日

●門真教組・寝屋川市教組合同による炊き出し。

●京都市教組、西灘小に炊き出し。青空市場へも参加。

●加印教組、大里小で炊き出し。



# 新たな状況をふまえ、自ら企画をもって 積極的にボランティア活動の展開を！

大震災から1か月以上経過する中で「ボランティア」のあり方、うけとめ方なども少しずつ変化しているようです。被災地の具体的な要望にそった「ボランティア」がいま大いに求められています。

ボランティア活動に参加する側が企画をもち、必要な準備をして、救援本部と連絡をとり、あらかじめ具体的に入るべき避難場所を特定することがボランティア活動を成功させるカギを握っています。

## 松茸のお吸い物 500食に大感激！

2月21日から22日にかけて、岐阜県教組の仲間たち16人が東灘区にある御影工業高校・御影高校の避難住民への「炊き出しボランティア」に参加しました。

避難住民の食事が、新聞報道によるとおにぎりやパンばかりでタンパク質・カルシウムなどが不足しているのではないかとということで、このボランティアが計画されました。県内で、周囲の方々にその話をしたところ、次々と協力者があらわれました。

30万円もする松茸、牛乳1000パック、もち500人分、ジャンボフランクフルト500本等々。焼き鳥屋の主人がヤキトリ2000本を焼いて、自らボランティアに参加してくれました。21日午前3時頃2トントラックに材料、道具を積み込んで出発。22日の朝・昼の炊き出しを行い、住民の方々に大変喜ばれました。

今回、取り組みが成功した理由は①自分たちで企画し、救援本部と連絡をとって、炊き出しを行う場所を具体的に決めて取り組んだこと②県民にも訴え、材料などの調達に全面的に協力して頂いたこと③トラックに自転車を積み込み、避難場所周辺の様子を見てまわって効率的に炊き出しを行ったことなどです。

## 期間を決め、集中的に派遣

埼高教は2月9日から12日まで2人のボランティアを派遣したあと、2月16日から18日まで(第2次)12人、2月23日から25日(第3次)10人といったようにいずれも2泊3日で期間を決めて、(木曜～土曜)集中してとりくんでいます。

あらかじめ日程・人数を救援本部に連絡してあるので、本部側も事前にとりくみの内容を予定し、適切な派遣先も決めるこ

とができます。各組織がボランティアにとりくむ一つの参考になります。

この第2次ボランティアに参加した埼高教の組合員から次の感想が寄せられています。

## 中・長期的な取り組みの重要性

電気・水道・ガスの復旧に従い、自宅に戻る人や仮設住宅に入居する人も出始め、避難所の統廃合が始まり、今後進む予定だそうです。食・住がある程度行き渡ったので次は生活の質の向上、子どもの生活環境・教育の問題に関心が行き始めています。「とりあえず避難所に行けば仕事がある」という善意のみのボランティアがあふれ始めています。中・長期のビジョンを持ち、行動を起こす人が求められていると思います。

今回出会った先生方は、みなさん善意にあふれていて「世の中捨てたもんじゃないな」と思いました。きっと学校に帰えられたら生徒に伝えられてよい教育をなさると思います。それだけでも今までよりずっと進歩ですよね。もう少しお役に立てるのではないのでしょうか。

2/25(土)から変更

## ボランティアの車には「除外章」

### ①県内のボランティア車両は

最寄りの警察署に出向き、いつ、どこに、目的(炊き出しボランティアなど)を告げ、車両検査証および運転者名などを届け出ると『除外指定車両』の標識を発行してくれます。

これを掲示すれば、『復興』の標識と同じ扱いになります。

### ②県外のボランティア車両は

兵庫県内に入った時点で、最寄りの警察署に立ち寄り上記の手続きをすれば同じように『除外指定車両』の標識を発行してくれます。

# 求められる救援活動と行政への要求の声を大きく！

全教が実施する救援活動には、すでに2200人を越える教職員が参加。行政の手による被災住民への支援活動がすすんでいるとはいえ、住居や雇用の確保など問題は山積。小中学校の授業が再開したとはいえ、避難所となっている学校は午前、午後で学年をわけた2部授業となっています。復旧への激励となるボランティア活動とあわせて国への要求行動を強めることが必要です。

## 『神戸市内高校一年生の 手記集』完成

神戸市内にある高校1年生の手記を集めた冊子が完成し、救援ボランティアの活動に参加した教職員などに配付されています。

この手記集には、地震発生直後のなまなましいようすや肉親や友達を失うなどの悲惨な体験をし、こころに深い傷を負いながらも、その悲しみに耐え、必死で生きようとしている高校生たちのすなおな思いが綴られています。

手記集の中から

- ◇ 「学校を見たとき、ほっとしました。友達、先輩、いつも朝による部室、階段の上り下り、1年4組の部屋、空気、その全てが私の不安と緊張をときほぐしてくれます。」
- ◇ 「今は誰でもいいから、その人のためにしてあげたいと思う。人の命がこれほど尊く思えたことは決してなかった。」
- ◇ 「本当に頑張らなければいけないのはこれからだから、被災した人も、私たちも、力を合わせて考えていかなければならない。それから、今まで政治には無関心だったけれど、これからは政府がどういう対策をしていくか、しっかり見届けたいと思う。」
- ◇ 「今は『がんばれ』って言葉が、すごく重い言葉だと思う。何気ない言葉だけど、いま一番被災地の人々にかけてあげたい。あの日からみんな強くなって、思いやりが出来たと思う。だから災害前の神戸より、きっといつかすてきな街ができる。私の神戸が大好きです。そして早く春になり、桜の花が咲くといいと思う。みんなもっと元気になって頑張れる。」

## 「半分水につかっていた教科書をひっぱり出してきたんだ」

去る2月17日から19日の3日間にわたり、神戸市中央区などの避難所、被災地域の救援活動に参加された都教組の先生から、その体験記を記載した学級通信が送られてきました。

(前略)18日(土)6時50分、朝食は菓子パン2個とココア飲料。甘党の私も甘みには閉口してきました。こういう朝食を続けていて、子ども達や老人の栄養状態に重大な欠陥を起こすと、栄養士ボランティアが指摘していたのを思い出しました。

『半分水につかっていた教科書をひっぱり出してきたんだ』  
「校庭は地割れで遊べないんだ」と言っていた小6の男の子はランドセルを背負って登校。ベットと寝ていた女子中学生はセーラー服に着替えて学校へと向かいますが、プライバシーのない生活。不自由な学習環境、発育障害を起こしてしまいそうな食事。「経済大国」「GNP世界第2位」の日本か？心から疑ってしまいます。軍事費やゼネコン優先の大開発公共工事を削れば、今すぐ全部実現するはずだと思いました。

## 『よろこばれています。ボランティア』

— 桜田先生からお手紙が届きました —

さる2月24日、大教組、京教組のボランティアの教職員が、被災された神戸市立高教組の、桜田先生宅の片づけ作業に入りました。その桜田先生からお礼の手紙が届きましたので、その一部を紹介します。

日ごとに陽光が春めいてまいりました。

この度の震災では多くの市高関係者とその御家族、生徒たちが被災され、本当に胸が痛みます。私宅も全壊してしまいましたが、今はありがたいことに職場の方のお世話で安らぎの場を得ております。

(中略)市高ニュース2月16日号に「好評・全教片づけボランティア」というものがあると隅席の先生に教えられ、早速市高教組に電話をし、とんとん拍子に話が進みました。

当日、他府県からのボランティア6名が来られ、きびきびと軽快なフットワークであつという間に危険なしんどう作業が終了しました。「どれも大切な財産ですから、できるだけ運び出しましょう」と言って下さり、高層への往復のしんどさを案ずるわたしに「いいんですよ、これが私の役目ですから」とさりげない心配りがそこに。少しでも荷物が取り出せたという喜びよりもボランティアの先生方の残していかれたさわやかな風が私のささくれ立った心を包み込み、しばらく忘れていた人間らしい心地を覚えました。ボランティア活動に対する勉強不足を痛感するとともに、私にできる活動に是非参加したいというおもいに駆られているこの頃です。

本当にありがとうございました。

摩耶高校の避難所には1時頃着。夕食までの間、地域ボランティアに出ました。近所の集会所には老人ばかり20～30人くらい避難。「何か困っていること、ありませんか」と声がけしていくと、あるおばあさんが、「洗濯機とフライパンとガスレンジを取り出したいが…」と訴えてきたので早速現場を見に行きました。フライパンとガスレンジは取り出せましたが、入口のアルミドアがゆがんでるので洗濯機は取り出せません。そこで窓ガラスをはずして、取り出しました。更に「灯油缶とヒーターが危ない」というので、別の窓から入って取り出しました。

おばあさんは胸のつかえが取れたらしく「ありがとう、ありがとう」と言って涙をポタポタ落していました。(後略)

# 広げよう！全教緊急要請署名行動

全国各地から参加するボランティアの活動は、行政がおこなうべき救援活動の遅れや手の届かないところをおぎなううえで、いまなお重要な活動となっています。一方、通常の教育活動の再開、被災者の本格的な生活の復興にとって不可欠となっている損壊校舎の再築・補修、住居や雇用の確保、中小零細業者の営業再開にむけての支援などは、国が責任をもって緊急に実施しなければならない分野です。こうした国の責任による支援措置を確実に実施させるためにも、いま取り組んでいる全教「緊急要請署名」行動を大きくひろげ、成功させることがとりわけ重要となっています。

## 住民に大歓迎される避難所での炊き出し

—土・日曜日、250人が全教救援活動に参加—

全教は、2月最後の上・日曜日となった25、26日、避難所となっている小学校などの炊き出し、教育活動の正常な復旧のための救援活動や自宅で生活をする障害者や被災者への訪問、国・自治体への要求の聞き取り活動を実施しました。

炊き出しでは、26日の日曜日、大教組の門真市教組、寝屋川市教組が300食のコーン・スープと700食のカレー、兵庫・加印教組は1300食の肉ダンゴスープ、ちくわの磯辺揚げ、さつまいもてんぷら、京都市教組が筑前煮500食と21キロの焼き肉、京都府立高教組がぜんざい500食などを提供しました。避難所での食事は、昼食が支給されないところがあるうえ、その内容はいまだにパンやおにぎり、弁当などがつづいており、「パンやおにぎりばかりではのどをとらない」との苦情も出ています。それだけにあたたかいものや煮物などは、被災住民からたいへんに歓迎されています。

真岡小学校には約1000人の被災者が避難。全教滋賀の組合員を中心に、連合組合員や未組合員の人も含めて約25人がうどんと豚汁各500食の炊き出しをおこないました。滋賀県内のA小学校では全教組合員はごく少数ですが、多数の連合組合員も全面的に協力。校長も学校のテントの貸し出しに心よく同意し、激励してくれました。こうした共同の広がりにはげまれ、全教組合員は先頭になってがんばっています。

## すでに2200人をこえた全教ボランティア参加者

震災後の全教のボランティア活動に参加した教職員は、すでに2200人をうわまわりました。この活動には、教職員組合に加入していない教職員や日教組に加入している教職員、また大学生、高校生なども多数参加。25日の活動の打ち合わせ会場となった尼崎教育会館の会議室には、大阪、奈良、京都、香川、埼玉、東京などの全教の組合員をはじめ、宮城高教組の組合員、高校生、香川のAETなど約40人が集合。それ以後現地対策本部に到着した山口県高教組、京教組、都教組の組合員を含め、25日だけで50人以上の教職員がボランティア活動に参加しました。

26日に全教現地対策本部にあらたに到着した教職員、学生および避難所での炊き出しに直行した教職員約170人を含め、この土曜、日曜の両日で250名以上の教職員が全教の救援活動に参加しました。

## 心つなぎ、支援の輪

ひろげる高校生たち

尼崎市内の高校生徒会は全国の高校生徒会に手紙を出し、救援を訴えるとともに、街頭募金や避難所の子どもたちに芝居をしてはげますなど多様な活動にとりこんでいます。2月18日には、被害の大きい神戸市立貸合高校の生徒会と交流し、「勉強できる環境をつくるためにはどんなことができるか」などについて話し合いました。

一方よびかけにこたえて、大阪、奈良、高知などの高校生徒会から救援活動の問い合わせや義援金、救援物資などが届けられています。また北海道の高校生からは、南西沖地震の時に支援を受けたことへの感謝をこめて、尼崎の高校生をほげます手紙（下記）と見舞金が届けられています。

### 尼崎の高校生のみなさんへ

「こんにちは。2年前の北海道地震の際には、泥山の義援金を送っていただき、誠に有り難うございました。今回の阪神大震災に当たり、少しでもお返しお礼がしたいと思い、生徒会が中心となって義援金を集めることとなりました。少しでも、そちらのお役に立てば幸いです。しばらくの間、いろいろ大変だと思いますが、頑張ってください」  
(北海道立瀬川商業高校・女子高校生)

◆◆◆◆ ◆◆◆◆ ◆◆◆◆ ◆◆◆◆ ◆◆◆◆

## 大火災に見舞われた長田区・長田工業高校で卒業式

神戸市立長田工業高校（定時制）は、26日卒業式。周囲は一面焼け落ちたがれきにおおわれていますが、校舎はろうじて残骸をまぬがれました。重傷を負った生徒はいるものの犠牲者はなく、在校生も出席して卒業の門出を祝いました。しかし、事業所の消失や倒壊により、在校生のなかには解雇されたり、自宅待機中の生徒も多く、また内定の取り消しになった卒業生も数名あり、式をおえたあと、進路指導室へ相談に来ている姿もありました。

同校の体育館や格技場にも被災住民500人ほどが避難しており、食堂は診療所になっています。

全教滋賀  
速報から

## 要請署名のとりくみ早急に！

近畿ブロックなどを中心とした全教組織は、炊き出しなどの救援活動に際して、避難所の下見や打ち合わせなどを行い、綿密な計画を立てとりくんでいます。ここでは、全教滋賀がとりくんだ炊き出しやコンサート、そして、緊急に提起されている対政府署名を訴えを掲載した「しんぶん全教滋賀教組」（速報17 2/28）の記事を抜粋して紹介します。

## 炊き出しに長蛇の列！

被災者の方の食事は、朝昼が菓子パン、夕方は冷たい弁当というメニューが1か月以上続いています。（一日の食費を850円と政府がけちっているため）炊き出しは週に2～3回という状況の中で、私たちが用意した昼：キツネうどんと夕：豚汁は人変りばれました。

※対策本部注：神戸市は厚生省から食費を1日1200円にせよとの指導を受け、改善を迫られています。

## がんばれ子どもたち！の歌声

真陽小学校は全校で320人という小さな小学校です。現在そのうち1/3が転出しており、校長先生も心を痛めておられました。午後、北川先生（必佐小）・片岡先生（豊唾）を中心に、「がんばれ子どもたち！ミニミニコンサート」を開きました。そこには10人くらいの子も連が集まって、マイクを離さないくらい大衆でした。避難所の中からおじさんやおばさんも出てきて、手拍子をする人、一生懸命歌詞を覚えようとする人など、小さな人垣ができました。「一日も早く、ここの子ども達にも笑いと歌声が帰ってきてほしい」参加者全員が心からそう思いました。

## 『戦闘機買う金まわせ！』と署名

炊き出しの横に、被災地の復興と教育活動の再開を求める政府署名をおきました。炊き出しの食事を求めて並んでいる被災者の方々は、「わたしらのことやしな」「ほんまに総理大臣に届けてや」とするがような思いで署名をされていました。「戦闘機を買う金があったら、こっちに回せという署名です」と呼びかけると「その通りや、いつまでこんな生活を続けさせるんや」「政府も政府やけど、神戸市もそうやで。わたしら空港なんて欲しくないんや。そんな金があったら食事を何とかしてほしいわ」と怒りを込めて署名されていました。（この日1日で250人が署名）

## 仮設住宅当選はたった3人

真陽小学校に避難している被災者は現在1000人です。被災直後は2500人いたそうです。そのうち、仮設住宅の抽選に当たった人はたったの3人だそうです。地震は防げないが、被災者の救援と復興は政治の責任です。あまりにも遅い行政の対応にみんなが怒っていました。

## 今後の取り組み

## 《避難所等への支援》

- 避難所の受付、支援物資配布、食事用意夜警など
- 支援物資の仕分け、配布（日曜日）

※平日のボランティアが不足しています。派遣先は必要に応じて配置します。基本的に、避難所に泊まれる方（寝袋を用意できる方）にお願いしています。

## 《その他の支援》

- 組合員の家の片付け（適時）
- 兵庫県原水協 被災者訪問調査など状況に応じて

## 《炊き出し》

3/5（日）

- 寝屋川市教組（大教組）：600食⇒若菜小学校
- 氷上教組（兵庫教組）：500食⇒高羽小学校
- 滋賀高教組⇒御影工業高校
- 加印教組（兵庫教組）⇒大黒小学校

3/6（月）～7（火）

- 愛高教（夕食＋朝食）⇒上野中学校

3/15（水）

- 泉北教組（大教組）⇒長田小学校

※炊き出しは、避難所の規模や日程、被災者の要望などがありますので、事前に避難所との打ち合わせや下見が必要となります。

※避難所などの状況や支援活動の内容は、日々変化していますのでこの欄は3月3日現在で考えられる行動です。また、炊き出しについては、現地対策本部に日程が報告されているとりくみです。

生きがい  
勇気もち

# 前に一歩踏み出したい！

兵庫高教組 3月3日、神戸で中央委員会ひらく

大震災の救援・復興活動のために延期されていた兵庫高教組の第143回中央委員会が困難な状況をのりこえ、3月3日に開催されました。

- 会議では、被災状況や救援活動について発言が相次ぎました。
- 「被災者は今生きがいと勇気をもつよう支えてほしいと思っている。助けられることより、立ち上がりたい、一歩踏み出し前に進みたいと思っている」
  - 「学校を再開したが、危険な校舎のなかで授業が行われている。校舎の診断、改修は急務」
  - 「尼崎の高校生は、救援活動に立ち上がっている。彼らの連帯感とエネルギーはすばらしい」

○「保育園が機能しなくなり、子どもを学校に連れてきた仲間に管理職は年休を取れと強要した。そうした管理職の姿勢をきびしく追及するとりくみの中で組合を頼りに一人の人が加入してくれた」

○「頼りになる対応の早い組合。これが大事だ。職場の声を大切に活動しよう」など。

中央委員会は、組合員の団結をかため、子どもと教職員、被災者の立場に立った95春闘方針案、阪神・淡路大震災に対する特別議案を可決・決定し、「大震災の復興と結合して春闘を勝利しよう」の決議と、「いま私たちは、仲間の一人ひとりを思い、息長くがんばろう」の特別決議を採択し閉会しました。

## この間の動き

- 2/22 (水) ■長野、大阪、山口などから7名(大学生含む)。
- 北野小学校、鷹取中学校の支援
  - 大黒小学校へコンパスを届ける
  - 原水協 被爆者訪問活動
  - 加印教組栄養職員部有志5名⇒北野小学校
  - 炊き出し(おでん250食)
- 2/23 (木) ■埼玉、東京、長野、滋賀、大阪などから15名。
- 北野小学校、鷹取中学校の支援
- 2/24 (金) ■福島、東京、愛知、滋賀、奈良などから8名。
- 北野小学校、鷹取中学校、磨耶兵庫高校、神戸商業高校の支援
- 2/25 (土) ■宮城、埼玉、東京、山梨、京都、大阪、奈良、山口、香川などから52名。
- 北野小学校、鷹取中学校、磨耶兵庫高校、神戸商業高校の支援
  - 原水協 被爆者訪問活動
- 2/26 (日) ■埼玉、三重、京都、大阪、奈良などから31名。
- 吉田中学の支援
  - 西灘小・青空市場で支援物資の仕分け、配布
  - 民医連、原水協の活動支援
  - 門真市教、寝屋川市教組⇒本山第3小学校
  - 炊き出し(朝:コーンスープ300食、昼:カレー700食)
  - 加印教組30名余⇒大黒小学校
  - 炊き出し(だんご汁など1300食)
  - 全教滋賀教組⇒真陽小学校
  - 炊き出し(昼:きつねうどん500食、夜:豚汁500食)
  - 「がんばれ子どもたち!ミニミニコンサート」
  - 京都市教組、京都府高教(中丹支部)⇒西灘小学校
  - 炊き出し(昼:1000食)
- 2/27 (月) ■埼玉、東京、京都、大阪などから6名。
- 北野小学校、鷹取中学校、磨耶兵庫高校、神戸商業高校の支援
- 3/1 (水) ■東京、大阪などから5名(高校生含む)
- 北野小学校、磨耶兵庫高校の支援
- 3/2 (木) ■大阪、長崎から2名。
- 北野小学校の支援
  - 原水協 被爆者訪問活動
- 3/3 (金) ■東京、大阪から3名。
- 磨耶兵庫高校の支援
  - 原水協 被爆者訪問活動

※各日の人数は、その日に対策本部で受付をした人数です。支援活動参加人数とは違います。

## 西灘小支援行動

### 参加者の感想から

—西灘小・岡本先生が感謝—

### 行政の早急な対応を

—岸和田市教組(大組)

田所先生の感想から—

西灘小学校へ救援物資配給のボランティアに参加しました。

西灘小が避難所となり、学校として全く機能していない事に驚きました。西灘小の教職員が、毎日長時間被災者とボランティアのまとめ役をされ、疲労も限界に達している事でしょう。学校再開の目処も立たない中、1日も早く被災者も学校も震災前の状態に戻る様、行政の早急な対応を望みます。

### 全教おおっぴらに

—全教神戸 西灘小

岡本先生から—

毎日曜日に開いている青空市へ、2月19日、2月26日と多勢来て頂き、たいへん助かりました。

また、26日には、京都市教組の炊き出しもあり、「全教が…」という会話がとおっぴらにできるようになりました。

「また、今度も来てもらえるのか?」と頼りにされています。

先日、京都の先生から子ども全員分のクッキーも届き、とても心がなごむ思いでいっぱいです。

どうもありがとうございました。

# 子どもと教育守り 地域を復興させる力となろう

3月4日、全教西宮定期大会ひらく

## 震災に負けず

3月4日(土)、震災で大被害をこうむった西宮でも、全教西宮の定期大会が開かれ、救援活動やこの間の組合のとりくみについて発言がありました。学校が教育活動としての場であると同時に、地域のセンターとしての場であるという基本方針のもと、一貫してがんばっています。

### 全教西宮の姿をみて組合加入！

- 「卒業式が近くなり、体育館におられる被災者に出ていってほしい」ということを学校長に言わせている。これは行政のすべきことであるし、被災者の側の立場で考えるべきだ。
- 市立幼稚園では、2年保育を実施しているが、4歳児に抽選で決めているため、あきらめて私立に行

く人が多い。この震災のため定員割れを起こしているのに、また4月以降に抽選では…。親は、怒っている。

- 震災のため、この3学期は十分な教育活動ができていない。このままでは来年度の学習計画は、より子どもにとってきびしいものになる。そうした点で、全教西宮がと

りくみ、学習指導要領見直し決議を市議会で可決させた力は大きい。

- 兵庫県は、押しつけの5泊6日の『自然学校』に6億6千万円も予算を計上するくらいなら、そのお金を通常の学校運営や教育活動の復興にこそ、あてるべきで、『自然学校』は廃止すべきだ。

- 「こんな状態で学校を再開せよというのか！」と机をたたいて抗議した小川全教西宮委員長の申し入れで、1週間休校が伸びたことで、子どもも教職員も、本当に助かった。さすが全教だの声があがる。
- ※「この震災時に、組合に加入してくれた」に全員が感激しました。

西灘小

## 支援活動

青空市：支援物資配布

西灘小・青空市で支援するボランティア



支援が励みに

灘区の西灘小学校では、毎日曜日に全国から寄せられた備ブラシや石けんなどの洗面用具や日用雑貨、食器、衣類など生活物資を仕分けし、被災者に配布しています。

校庭を利用した「青空市」会場では、開始を待つ被災者で長蛇の列ができますが、ここでもお年寄りの姿が目立ちます。

「青空市」が始まると、一人当たり数点の物資を、ボランティアが手渡すのですが、消耗品や日用雑貨、下着類がすぐに足りなくなります。

校庭に敷かれたビニールシートに積み上げられた衣類の中には、汚れているものや夏服などの使えないもの。また、若者用の衣類や下着などが大部分で、お年寄り用のものがほとんどないというようなアンバランスな状況もあります。(※被災者や避難所によって物資の過不足の状況は違います)

西灘小学校の周辺も、軒並み全壊か半壊の状況にあり、電気と水は通じましたが、いまだに約1000名の被災者が西灘小学校に避難し、生活しています。

全教ボランティアの「青空市」のお手伝いや炊き出し、文化行事などのとりくみは被災者や西灘小学校の教職員を励ましています。

### お詫びと訂正

現地对策本部ニュースNO. 9の記事について、全教栄養職員部による「改善点」の⑥は、表現上不適切で分かりにくい箇所がありましたので、お詫びし訂正します。

2月上旬の時期において、教職員は子どもたちと被災者のために、寝食を忘れて炊き出しをふくむ救援活動をおこなっていました。その中で学校栄養士、調理員の人は様々な活動に忙殺されていました。

⑥の主旨はそういう状況を改め、学校栄養士、調理員が専門性をいかし、食事、調理の役割を担うことができるよう、行政に求めたものです。

以上の点で、⑥の記述を次のように訂正します。

『⑥避難者の食を改善するために、必要な要員を確保し、食事、調理の指導にあたるようにすること。』

# 3/8地元3教組(市立高教組・県高支部・全教神戸) 文部省と交渉

全教は「阪神大震災で被害を受けた学校の日も早い復興のための要求書」を文部省に提出し、3月8日、日高教も加わり交渉をおこないました。

この交渉には、現地から、田淵委員長をはじめとする神戸市高の代表と県高支部の若林支部長や全教神戸市教職員組合桐藤委員長、全教の西川副委員長、北野日高教書記次長などが参加し、文部省は助成局地方課、小学校課が対応しました。

## 文部省から感謝の言葉

文部省は回答にあたり、冒頭「教職員の方々が生徒の安否を気づかい、避難住民のお世話に奮闘しておられることに感謝申し上げる」とのべ、従来にない姿勢を示しました。そして、就学保障のための転入・転出手続きの簡素化については、通知を出しすみやかに受け入れるよう配慮をお願いし、迅速に対応されていると回答。教科書、学用品の公費補助についても「十分いきわたるよう努力したい(高校教科書については出版社の協力も得ている)」とのべました。

また、代替教職員の配置については実情にかんがみ検討しているとしながらも、必要な状況があれば対応できる状況にある。財政的には自治省もふくめ交付税の検討をしているとを明らかにしました。勤務の扱いについては「自治体によってまちまちだ。すべて出張扱いにすると問題も生ずる」「人事院は1週間を特別休暇とし『当分の間』については実情に応じた取り扱いがなされていると思う」とのべました。

## 復旧事業は国の財源で！ 住宅建設を急げ！

これを受けて、田淵市立神戸高教組委員長は「復旧事業は神戸市の教育予算をはるかに上回る。一斉に改築・改修にあたるよう国の財政保障を」とつよく要求しました。また参加者は学校の実情を次々に訴えました。

☆「生徒の安全のために危険な学校の改修をおこなう費用を国で保障してほしい。文部省の調査官は震災判定3度と診断しながら、手を入れて(校舍をそのまま)使え、などひどい発言をしている。何かあったらとおもうと心配だ」

☆「仮校舎は造られているが普通校舎だけで、実験・実習室は対象外というのがこれでは工業高校の教育はできない。今日は、校長を含めすべての教職員と生徒から願いを託されてきている。国の援助をぜひ。」

☆ 神港高校は地域の信頼を得ている伝統高校だ。今回も教育活動と避難住民のための活動をとにもおこない、卒業式に当たっては相談の結果、住民の方が心よく卒業式の会場にと体育館をあけていただいた。1、2年生は進学、就職に大きな不安を抱きながらみんなで頑張ろうと励まし合っている。1日も早い校舎改修にむけ国の財政保障をお願いしたい。「教職員の中には家族を親類の家にあずけるなど『単身赴任』の状況で教援・宿直に頑張っている教職員も多い。教職員も被災者だ。ボランティアに頼るだけでなく、行政の責任による要員確保が必要だ。そのための国の援助を。」

☆「被災する以前から授業料免除を受け、奨学金を頼りに学校に通っていた生徒は少なくない。家庭訪問をしたら、学校へ行かせられないといわれ、返す言葉がなかった。就学保障のために国の努力をぜひよろしく。」など。

また、従来の教育機能を学校が取り戻すためには、希望者全員に仮設住宅を早急に造り、生活の安定を保障することがなによりも必要なことを強く主張(兵庫高教組)し要求しました。

## 「全力を尽くす」と回答

文部省はこれらの訴えに真剣に耳を傾け、「私どもにできることは全力を尽くすつもりだ。政府全体で取り組む問題もあり、関係省庁と連携をとりながらやっていきたい。」と回答しました。交渉は要求の切実さもあり、予定を大幅に延長し、45分にわたりおこなわれました。文部省の具体的措置を今後も引き続きさせていくことが重要です。



- 3/ 4 (土) ■山梨、大阪、兵庫などから9名(犬姓約)  
○市立盲学校支援  
○組合員の家の片付け
- 3/ 5 (日) ■東京、京都、奈良、高知などから28名(犬姓約)  
○市立盲学校支援  
○西灘小学校・青空市場で支援物資の仕分け・配布  
□滋賀高教組→御影工業高校 炊き出し
- 3/ 6 (月) ■東京、岐阜、大阪、などから5名  
○鷹取中学校  
○原水協 被爆者訪問活動  
□愛知高教組→上野中学校 炊き出し(ぜんざい、おでん300食)夕食
- 3/ 7 (火) □愛知高教組→上野中学校 炊き出し(卵がゆ、コンスープ300食)朝食

- 3/ 8 (水) ■千葉、神奈川、長野、などから5名  
○鷹取中学校、摩耶兵庫高校、北野小学校の支援
- 3/ 9 (木) ■北海道、東京、滋賀、などから4名  
○市立盲学校支援  
○原水協 被爆者訪問活動
- 3/10 (金) ■北海道、東京、和歌山、長崎など8名  
○市立盲学校、摩耶兵庫高校、北野小学校支援
- ☆全教・日高教本部と現地の対策会議
- 3/11 (土) ■埼玉、東京、京都、大阪などから18名  
○六甲・北野小学校、鷹取中学校支援  
○原水協 被爆者訪問  
□全教滋賀→真陽小学校 炊き出し  
□加印教組(兵庫)→大黒小学校 炊き出し(1300食)





## ～全教が被災地の353校に ボールとサイン入り色紙をおくる～

好天の3月15日(水)全教山口書記長・西川副委員長・日高教和田書記長はJリーグ各チームのサイン入り色紙とJリーグ公認球をもって神戸市立神戸観音山小学校を訪れました。地元から兵高教組多上委員長、兵庫教組北河副委員長も参加しました。

教頭先生の放送で、給食をすませた6年生がグラウンドに集まってきました。サッカーゴールの前の私たちを上窓から見て子どもたちは、口々に「あっサッカーボールや」「やったー」と叫んでいました。女の子も男の子も身をのりだして見えています。

全教の山口書記長からの話を聞くのももどかしそうに、4つのサッカーボールを受け取った子どもたち。ある男の子はJリーグのマークに目を丸くしていました。

ヴェルディ川崎のある選手のサインを見て「10番やからラモスや」と言い当てたのは、大人もびっくり。子どもたちのうれしそうな表情や、窓に鈴なりになって見ている子どもたちを見て「こんなに喜んでくれるなんて」と多上委員長も驚いていました。

や  
っ  
た  
！

## ＝ 大事に使わせてもらいます＝

一行は午後、フェリーで淡路島へ向かいました。阪神淡路大震災の震源地とは山を隔てて2キロしか離れていない東浦町立浦小学校を訪れました。

校長先生との懇談のあと児童会の正副会長3人に、ボールと色紙を渡しました。山口書記長が、色紙を見せて「誰のかわかりますか」というと「アルシンドヤ」と即答したのは一同ビックリ。Jリーグの人気とJリーグのことは子どもたちの方が、うんとくわしいことがわかった一場面でした。

ボールを受け取りながら、子どもたちは「これで元気になります」「本物のボールで、大事に使わせてもらいます」「ありがとう」と元気にお礼の言葉をのべました。

このあとグラウンドにボールを持って行くクラブの子どもたちも寄って来て「これもらえるの?」と不思議そうな顔。「そちょっと蹴ってみて」というとすぐにリフティングしながらグラウンドの真ん中に行き互いに蹴り合っていました。

「小学生は元気だな」と西川副委員長も感心しきりでした。

浦小学校には、地元紙の記者も洲本からかけつけ、色々取材をしていきました。

帰りは、工事中の明石海峡大橋をみながらフェリーの看板で余韻をかみしめる一行でした。



## 2つのクラブで 記者会見

これに先だって午前中、一行は県庁を訪れ、民放記者室と県教委の記者クラブで記者会見をしました。

これには兵庫教組の前田書記次長も加わりました。会見では、山口書記長が被災した子どもたちに「希望と元気を与えたい」とこの企画の意義を語りました。

又、西川副委員長からは、Jリーグの佐々木広報室長に依頼をすると、喜んで応えてくれ、14チームの選手がサイン入り色紙を書いてくれたこと、ミズノからは、格安でJリーグ公認球を購入できたこと、これらの財源は全国の教職員からの義援金の一部が充てられたことを説明しました。

兵庫教組の北河副委員長からは新体連のよびかけたサッカー教室に多くの小学生が参加してきたこと、被災地の子どもたちが今スポーツに飢えていること、又、Jリーグの選手の中にも実家が被災したり、出身の小・中・高の学校が避難所になっているN選手もいることなどが紹介されました。

## J リ グ の ボ ー ル

## かつて神戸は サッカーの激戦地

大学時代、大阪の長屋居競技場に地元神戸高校のサッカーを見にいきました。

御崎中央競技場も古くから整備され、ユニバスタジアムもあり神戸の街の雰囲気にもサッカーはとても似合っています。一時は神戸を制するものは全国を制するといわれていました。Jリーグ入りを目指すヴィセル神戸には広島からハンスター監督も招いています。

グ子どもたちには大震災後、遊びやスポーツまで自粛させられています。また、六甲山もうかうかハイキングをすることもできない現状です。けれどもこんな時だからこそ353校の子どもたちに贈られた、ボールと色紙に込められたJリーグ選手のさわやかな励ましが子どもたちには、素敵なプレゼントとなるでしょう。

兵庫教組は子どもたちへ「最善の利益を」余暇と遊びの権利を保障することを、強く要求するものです。

(北河副委員長・談)

—74—

## よろこばれた炊き出し

## 全教滋賀第6次行動

3月11日、全教滋賀教組は第6次救援ボランティアとして長田区・真陽小学校に2度目の炊き出しを行いました。この日は県教委から許可を得たテントや机、前日30人以上の教職員で準備した大量の野菜を車に積み込んで、教職員、父母、学生など36人で出かけました。以下、3月19日付「しんぶん全教滋賀教組・速報NO19」より抜粋し、掲載します。

## 子どもの心にも深い傷痕が

わたしたちボランティアのところに、小2の女の子がやってきて「おっちゃん、抱っこして!」と飛びついてきました。よくよく事情を聞くと、真陽小の子どもではなく別学区からきているとのこと。この日は第2土曜日でしたが、地域がズタズタになって遊べないし、食事にも不自由するなかで、朝お母さんが「ここで待ってなさい」とわざわざ真陽小学校まで連れてくるそうです。「おっちゃん、おっちゃん」と幼児のようにまわりつく子どもの姿に、深い心の傷痕を感じざるを得ませんでした。

この日は人数に余裕があったので、能登川中の先生方(7人もきてくれた)に、サッカーやドッジボールなど子どもたちの相手をしていただきました。また、女性のAETの方は子どもたちに大人気で、ずっと子どもたちと遊んでいただきました。

## 24日は卒業式、

——「何とか成功させたい」と校長先生——

この学校では24日に卒業式を予定されています。しかし、現在に至っても使える教室は4つで、6年生のみ通常授業(すしずめですが)で、あとは2部制(午前中低学年、午後は高学年)になっています。私のところにお礼にこられた校長先生は、「今、体育館に避難されている方のところに一人一人回って、24日だけでいいから卒業式ができるスペースを開けて欲しいとお願いしているところです」とおっしゃっていました。また、校長先生は「こんな状況だからこそ、被災者の方々と一緒にこどもたちの卒業を喜び合える卒業式にしようと職員と話し合っています」とおっしゃっていました。

この日は休日にもかかわらず、半数近い教職員が出動しているとのこと。私たちは「ぜひがんばって下さい」という言葉しか返せませんでした。



## 人間として教師として感動!

## 長崎高教組の久原和敬さん

神戸市立盲学校の避難所で3月10日~20日までボランティア活動に参加してこられた長崎高教組の久原和敬さんに、大震災から2ヵ月たった避難所の様子や被災者の方々がいま求めていることなどについて話していただきました。

ボランティアに入って感激したのは、学生の皆さんの頑張りと献身的な活動ぶりです。若者たちもやれるんだということを実感すると共に日常の学校生活の中で、その力を引き出せない力不足を痛感させられています。

避難所もやっと落ち着いてきており、実質的な仕事よりも顔なじみになって精神的なケアなどの役割を果たすことが大切になってきていると思います。これから避難所に残されていくのは老人など社会的弱者の方々であり、行政のあたたかい施策が一層求められていると思います。

また、小・中学部の卒業式を見ることができたり、盲学校のしくみなどがわかってとても学習になりました。

## 26日から被災者の食事打切り

## 市災害対策本部が方針

3月16日、被災住民の声を無視して「復興都市計画案」を強行可決したことに追い打ちをかけるように神戸市災害対策本部は3月26日をもって「食事の提供は避難所に避難している者及び特別の事情のある者に限る」とのお知らせを各避難所に掲示。

食事を打ち切られた被災者の方が困り果てる状況も出てきており、ボランティアの方や被災地住民から怒りの声があがっています。今こそ人に優しいきめ細かい手立てと配慮が必要になってきています。

◎阪神救援ボランティアに参加しての  
奇数市立北中学校3年 岡田聖也

僕はこの活動をするにあたって、いろいろなことをボランティアの人や被災者の方々に教えてもらい、助けてもらったりしていただきました。僕も最初のころは何をしただけなのか戸惑い、悩んでいたけれど、だんだんと先輩の行動を見たり、分からないときは尋ねたりしていくうちに、自分が今何をしたいのか、前の中で覚悟できるようになりました。そして、まわりの人とも仲良く、親しくなれました。避難所で生活している人に声をかけてあげることは、勇気もいったのですが、自分にとって一番嬉しかったことです。でも、やっぱり本当に心に強くたたきこまれたことは、いろいろな人を助けること、あるいは世話をするとともに、その人の断りなしにやるのではなく、自分がさせてもらうという精神でなければいけないということでした。そのような考え方になんともいえない人間の暖かさを感じました。

1995年3月21日(火)ボランティアから帰った夜

## 救援ボランティアと諸とりくみに つぎつぎと礼状とどく

全教、日高教、全国私教連、教組共闘をはじめとした全国の教職員の懸命な救援活動、義援金、受験生ホームステイ、教育・法律相談、そしてJリーグ選手の色紙とボールを送るとりくみなどにたいして被災地の学校長（幼・小・中・高・私）から、お礼の電話や礼状がつぎつぎと届いています。被災地から困難をのりこえて生活再建にとりくむ息吹を全国にお知らせします。

平成7年3月18日

兵庫県高等学校教職員組合  
中央執行委員長 多上 尚之 様

兵庫県立神戸商業高等学校  
校長 友河 敏雄

この度の温かい心遣い本当にありがとうございました。

御支援いただきました義援金は、被災生徒の見舞品購入金として利用させていただきますので御了承下さい。

おかげをもちまして、ようやく限られた条件の下で頑張り始めた生徒たちの笑顔を見ることもできるようになりました。

被害が大きかった教室棟とクラブハウスは、依然として使用の見通しは立っていませんが、交通事情等の復旧に伴い、2月14日からは特別教室を利用して45分授業ではありますが、6時間授業を実施しています。

本校の生徒・教職員の罹災状況は、生徒1名が重傷で入院中ではありますが、他に大きな犠牲者がでなかったことは、不幸中の幸いでありました。

しかし、生徒の家族やついこの間まで本校で学んでいた卒業生の死に接するなど、悲しい現実もあります。また、自宅の倒壊などにより家庭生活の場を奪われただけでなく、会社・工場・店舗の損壊による家庭の経済基盤を破壊された生徒は相当数に上がります。長期にわたるお物心両面の支援が必要とされますが、本校においても助け合い、励まし合いながらの毎日が動き始めていくことも間違いない事実です。ひとまず御安心いただくとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上、取り急ぎお見舞いの御礼と現況のご報告をさせていただきます。

## 被災地三宮で「ふたり展」

私教連の古川・山内さん

— (3/23~3/28) — 神戸たじま画廊

東京私教連の古川ひろし・山内知子両先生が、年1回開催してきた個展を被災地三宮で開催します。古川先生は冬休みを利用して神戸を描いてきた「絵はがき」を職場や友人に買っていただき、すでに190万円を超える義援金を寄せている方です。（現地本部ニュースNO20で紹介）。心の安らぐひとときをどうぞお楽しみください。

画廊案内図

- ・交通 JR線元町駅東口下車徒歩5分
- ・連絡先 神戸市中央区三宮町3-1
- ・電話 (078-332-0733)



## 阪神大震災兵庫県 民会議に結集して 震災対策・罹災者の 要求ここまで実現

### 〔住宅〕

- ▷仮設住宅の建設計画を4万戸まで増設へ。  
小規模地震対策担当相は、希望者全員の入居に「私が責任をもつ」と表明
- ▷仮設住宅入居での所得制限を外す
- ▷高齢者や障害者に仮設住宅優先入居、旅館やホテルの提供
- ▷民間大企業が空き社宅を一部提供
- ▷被災住宅の応急修理は借家も対象にし、借家人の申請も認める
- ▷借地借家人の権利を保護する種（り）災都市借地借家臨時処理法を適用

### 〔食事〕

- ▷被災者1日1人850円の食費を、平均1200円に引き上げへ

### 〔がれき〕

- ▷がれき処理は全額公費負担。個人が撤去したのも領収書等あれば負担

### 〔医療〕

- ▷医療費は4月末（低所得者は12月末）まで免除
- ▷医療機関の復旧資金への国庫補助引き上げ
- ▷仮設診療所を公有地に設置
- ▷公害認定患者の確認、救済

### 〔営業〕

- ▷兵庫県、神戸市の無担保・無保証人融資として別枠1000万円
- ▷無利子の高度化融資を新たに組合を作る業者にも適用
- ▷仮設工場、仮設店舗建設への支援

### 〔雇用〕

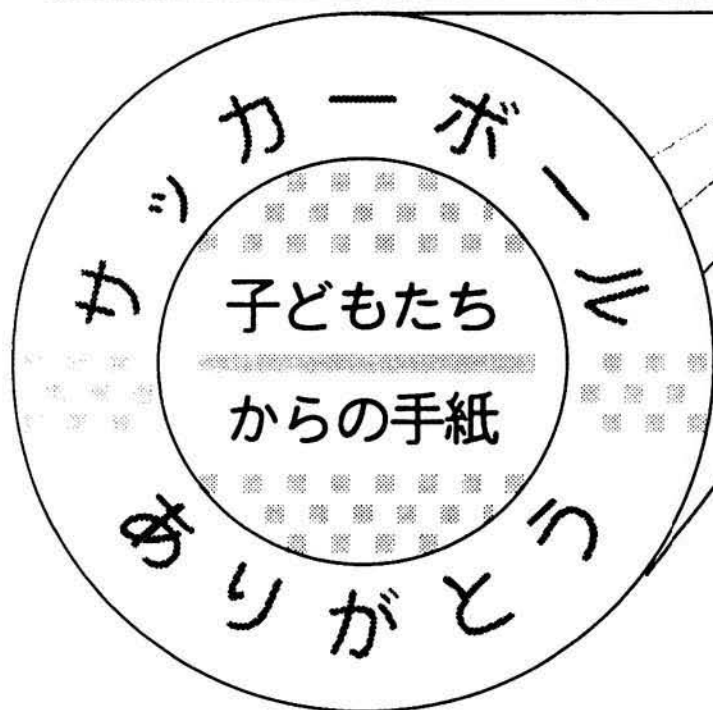
- ▷失業給付と雇用調整助成金との併用
- ▷新卒者の採用内定取り消しで雇用調整助成金支給
- ▷阪神高速料金所の職員の解雇撤回

### 〔教育〕

- ▷私学施設復旧費補助（2分の1）を仮設校舎にも適用。専修学校等の施設復旧に2分の1補助
- ▷奨学金の緊急貸与

### 〔ボランティア〕

- ▷厚生省が全国社会福祉協議会（全社協）に「ボランティア支援募金」を創設し、事務所設置費、交通費、通信費、運搬・移送費など助成へ



3月15日、全教と日高教は、兵庫県の被災した小学校、中学校353校に「リーグの各チーム選手のサイン色紙とサッカーボールを「子どもたちの動きに」との思いこめ、学校に届けました。こうした明るい話題は、子どもたちの明るい笑顔をさぞっています。今回のニュースでは、兵庫教組に寄せられてきた、子どもたちからのお礼の手紙から一部を紹介します。

「横浜フリーゲルスのみなさんへ」  
横浜フリーゲルスの、大たけなおと選手、森あつひこ選手、おみまいの、サイン、ありがとうございました。

郡家の商店街は、ムチャクチャです。ぼくのすんでいる江井でも、つぶしている家もあります。ぼくの家は、はんかいで、線香の工場はんかいです。屋根を取りかえたっただけです。ぼくの友だちで、家をつぶした子はいません。神戸の方は、ひどいですね。でも、神戸の人も、それに負けないよ

お見舞いのサイン色紙、ありがとうございました。

わたしたちの所は、ひ害は、あまりありませんでしたが、所々に、青いビニールシートが見えています。

すぐに、電気もついたり、水道も水が出たり、ガスもつきました。となりの郡家地区は、テレビにでるほど、すごいしんさいでした。

これからもがんばってください。

江井小学校4年 小池 有美

## みんなよろこんでます

うに、がんばっています。横浜の方は、ひ害がありましたか？

それと、サッカーの試合、がんばって下さい。  
江井小学校 金登 三典

「サッカーボールをくれた人へ」

サッカーボールとサインをとどけてくれてありがとうございました。みんなよろこんでいます。とくにサッカーボールは男の子が喜んでます。本当にありがとうございました。

「横浜フリーゲルスの人たちへ」

お見舞いのサインどうもありがとうございました。めったに見ることはないと思います。

そのサインは3階にかざります。わたしたちの学級でも大さわぎでした。おうえんしています。がんばってください。さようなら。  
江井小学校4年 岡田 速美

「サッカーボールと色紙をありがとう」

先日は、サッカーボールと色紙をいただきありがとうございました。

あの日、一月十七日の午前五時四十六分、私はまだねていてあまり覚えていませんがお父さんが、「地震や！早よ起きよ。」とみんなに言っていました。また、家の中は本やお皿がメチャメチャになっていました。

私の家はあまりひ害がありませんでしたがテレビをみて、死んだ人や街が火事になっていくのを見てとてもおそろしかったです。こんな事は二度と起こってほしくないです。

これからは、サッカーボールでみんな元気に楽しく遊んで、地震の事は一日も早くわすれたいです。

本当に、どうもありがとうございました。

児童会 山田 景子

アルシンドや！

「ボールとしきしありがとう」

一月十七日午前五時四十六分に、阪神淡路大震災に会いました。とたんに家が、ぐらぐらとゆれて、つくえの上の物が、だだだだど、いきおいよくおちてきました。私は、なに事か、はじめは、わかりませんでした。けれど、じしんという事が、あとからわかりました。生まれて、初めてのじしんだったのでとてもびっくりしました。でも、あんなことがあったけど、くじけないようにと、アルシンドのサインと、ボールをいただいた。みんなとてもよろこんでいました。ほんとうにありがとうございました。

浦小学校児童会 平岡 佑弥

「ボールと色紙」

ボールと色紙どうもありがとうございました。そのボールで元気よく、みんなで遊ばしてもらっています。

色紙は、みんな、めずらしくて、集まってアルシンドのサインやと、言っていました。その色紙は、みんなで見るようにタモクテキホールにかざってあります。

ボールと色紙を送っていただいてありがとうございました。みんなで、大切に使はしてもらいます。

山崎 大

1995年4月20日

兵庫県知事 貝原 俊民様

兵庫県教育委員会

教育委員長 崎山 昌廣様

教育長 芦田 弘逸様

兵庫教職員組合

執行委員長 春名



## 阪神・淡路大震災復興と 学校の教育機能回復のための申し入れ

阪神・淡路大震災よりちょうど3か月が経過し、兵庫県下の各学校においても、新入生を迎え、新しい年度がスタートしました。

この間、貴教育委員会におかれましては、災害復旧・復興のため、昼夜を分かたぬご尽力をされましたことに、心よりの敬意を表します。

私たち教職員も、それぞれの学校・地域で、児童・生徒、保護者、地域住民のための支援活動と本来の教育活動の両面を担って、必死の努力を続けてまいりました。こういう中で神戸の小学校では、教頭が過労により急死するという事態も起こっています。

兵庫教組はすでに1月24日付けで、教職員と児童・生徒、教育を守るための緊急申し入れを行い、その実現のために努力してまいりましたが、新年度を迎え、新たな状況も生まれております。したがって、学校の教育機能の早期回復、改善を求めるため、以下の対策を申し入れますので、早急に具体化し、実施されるよう要請致します。

### 言己

#### 1. 多様な仮設住宅の早期建設について

震災後3か月が経過した現在でも、約5万人の被災者の方が、小・中学校等を避難所として寝泊まりしておられます。災害救助法では、避難所生活は我慢の限界を考慮して7日までとなっています。避難所生活の早急な解消こそ復興の原点であり、学校の教育機能の回復にとっても何より緊急かつ重要であると考えます。

したがって、次のような施策がとられるよう関係当局に働きかけて下さい。

- ① 家族数に見合った多様な仮設住宅の建設を促進すること。
- ② 借り上げ可能な民有地の募集も含めて用地確保に努め、住民の便宜を考慮して、まち中に数軒単位でも仮設住宅の建設を図ること。
- ③ 元の住居の瓦礫を撤去した土地に仮設住宅を建てる希望がある場合、それを認めるよう、国に強く働きかけること。
- ④ 応急修理によって当面住むことが可能な住宅や借家には、仮設住宅建設にかかる

費用と同額(約300万円)の資金を支援すること。

#### 2. 被災児童・生徒への対応について

- ① 震災により、住家の損壊を受けた児童・生徒の修学を支援するため、被災したすべての児童・生徒を対象に助成金を支給すること。
- ② 子どもの成長にとって欠くことのできない遊び場や運動場の確保についても十分努力すること。
- ③ 通学路の安全確保のため、アスベスト飛散に対する対応を含め、安全対策を十分に講じること。

#### 3. 教職員の過重負担の解消について

- ① 教職員の泊まり込み体制が長期にわたって続き、教職員の疲労も限界に達しており、教育活動にも支障が出るのが考えられますので、行政の責任で、夜間の避難所に職員を配置すること。
- ② その他、避難所となっている学校の教職員の具体的な要望を十分に聞き、その実現と改善のため努力すること。

#### 4. 被災した学校の施設・設備の建て替え、修復について

学校教育の特別の重要性を考え、新潟地震後の新潟市の経験も参考に、次のようにとりくんで下さい。

- ① 3年間で、全小・中学校の復旧が完了できるようとりくむこと。
- ② 改築にあたっては、教育条件の抜本的改善とともに、今回のように避難所となることもふまえ、少なくとも学年単位で入れるランチルームや、教室も含めたエアコン、エレベータ、スロープなどを備えた豊かな学校になるようにすること。
- ③ また、労働安全衛生法に基づく、更衣室、休養室、男女別職員トイレ、シャワールームなどを兼ね備えたものにすること。
- ④ 必要な仮設校舎の建設を急ぐとともに、すべての仮設校舎にエアコンを設置すること。
- ⑤ その他、当該学校教職員の希望に十分耳を傾けること。

#### 5. 教職員の配置について

- ① 仮設住宅の建設により、4月以降児童生徒数が増加する地域の学校の学級編制にあたっては、5月1日現在「1割程度の増」にこだわらず、学校から希望がある場合には学級増に対して弾力的に対応すること。
- ② 子どもの心のケア等に対応するため、「被災地加配」や30人学級の実現に努力すること。

1995年7月4日

兵庫県教育委員会

教育委員長 崎山 昌廣様

教育長 芦田 弘逸様

兵庫教職員組合  
執行委員長 春名



## ゆとりある教育の実現と 教職員の生活改善を求める申し入れ書

震災以降5か月あまりが経過しました。神戸・西宮など被災地の学校では、多くの子どもたちが、さまざまな悲しみや困難に耐え、友達と励まし合って頑張ってきました。また、教職員も、多くの不幸な事態に直面しながらも、宿日直や震災復興の活動と通常の教育活動を両立させながら必死の努力を続けてまいりました。

しかし、関係者の努力にもかかわらず、校舎などの施設・設備の改築・補修は進んでおらず、教材・教具の不足は授業をすすめる上で大きな支障となっています。仮設校舎等により運動場が十分に確保できず、子ども達の体育や遊びの場所に困っている学校も相当数に上ります。生活リズムが崩れ、生活指導上さまざまな問題をおこす子どもや、家庭の経済状況が困難な子どもが増えていることなども多くの教職員から報告されています。

このような状況にもかかわらず、教職員は授業の遅れを少しでも早く取り戻そうとして子ども達を追い立てざるを得ず、学校はますますゆとりのないものになっています。学校5日制に見合わない学習指導要領や5泊6日の「自然学校」、日程が早まるといわれている高校入試などが、忙しさに輪をかけています。この結果、子どもたちも教職員もストレスがたまっています。私たちは、施設設備の改築・補修など教育機能の早期回復と、学校5日制の趣旨にそって学校が、子ども達にとっても教職員にとってもゆとりあるものとなるよう、下記の事項について要請します。

### 言己

- 1、被災校舎の改築・改修・補強を早期(全面改築の場合でも3年以内)に行うよう国に働きかけること。なお、その際、種々の特別教室やランチルーム、労安法上の諸施設などの整った学校となるよう要請して頂くこと。
- 2、被災した子どもへの就学助成や奨学金制度のいっそうの充実が図られるよう県としても努力すること。

3、被災した子どもの心のケアや、今後多発することが予想される生活指導上の諸問題に対処するため、

① 35人学級の実施や被災地加配、養護教諭の複数配置など教職員の大幅増を行うこと。また、国への働きかけを行うこと。

② 学級編制基準の弾力的運用や震災復興教員を来年度以降も継続すること。

4、教材・教具の不足が教育活動を進める上で大きな支障となっている実態を掌握し、必要な教材・教具がすぐ整えられるよう、緊急の予算措置を国に対して働きかけること。

5、被災地の子ども達の進路に対する不安を解消し、中学校の授業がゆとりあるものとなるよう、来年度の高校入試にあたって次の特例措置を講じること。

① 推薦入試の時期を可能な限り繰り下げること。

② 一般入試の出題範囲を限定すること。

③ 兵庫県内の私立高校に対し、入試日を遅らせるよう働きかけること。

6、いまだに教職員の宿日直が続けられている学校においては、早期に解消が図られるよう県として必要な指導を行うこと。

7、家屋の修理や立て替えに必要な教職員に対し、長期かつ低利の融資を行うよう、公立学校共済組合及び学校厚生会に働きかけること。

8、学習指導要領を、学校5日制に見合ったゆとりあるものに改めるよう強く国に働きかけること。

9、5泊6日の「自然学校」については、被災地の学校の状況とも、また学校5日制の趣旨とも矛盾が生じており、実施するかどうかの判断を学校に一任するとともに、実施する場合でも日程を弾力化できるよう改めること。

10、不要不急の海の自然学校の計画調査費の計上をやめ、緊急に必要な経費の増額にあてること。

# 授業再開へ復旧早く

文部省への  
申し入れ  
兵庫から先生が上京



1日も早い学校教育活動の再開にむけて文部省に緊急の申し入れをおこなう全教の代表と郡司（右から3人目）、多上（同2人目）両委員長＝27日、文部省

阪神大震災の救援活動にとりくんでいる兵庫県の教職員組合の代表が二十七日、上京して文部省を訪ね、被害を受けた学校の復旧と授業再開で緊急の申し入れをおこないました。

上京したのは多上尚之・兵庫高教組委員長と郡司春乃・兵庫教組委員長の両氏。石井淳平・日高教委員長、長谷川英俊・全教副委員長らとともに要請書を提出しました。

中学教師の郡司委員長は、西宮市の自宅が被害にあいながらバイクで救援活動に走り回り、「スカートをはいたのは十日前りで、銭湯もぎのう

やっと入れた」と語ります。

兵庫県下では神戸市立烏帽子中の校舎の二階、三階が全焼。鷹匠中（神戸）、甲陵中（西宮）、上ヶ原中（同）、長尾中（宝塚）の校舎が半壊するなど被害は深刻です。

郡司委員長は文部省にたいし、校舎の建て替え、施設の整備などへの財政援助を関係機関にはたらきかけることを申し入れました。

とくに授業再開・学習への支援措置、転校問題、教職員のボランティア活動の保障について発言。倍加のテンポで増える転校生徒は県下で二十五日現在、一万人をこえ、「さ

らに増えそうというのが現場の実感」とのべ、①神戸など生徒が激減する転出地域では三十五人学級などの緊急措置で対処の転入先の地域では過密学級にならないよう学級編成を弾力的にすることを要望しました。

また避難場所となった学校の衛生状態が悪化し、一刻も早い改善が必要とのべるとも、「十萬単位の住宅建設による被災住民の生活保障が、学校が教育の場として機能していくキーポイントになる」と強調しました。

多上高教組委員長は、高校生が進学する専門学校が被害を受けたことから「合格通知を受けたあとに募集停止の通知が届いたこともある」とのべ、大学へ受験機会の保障と合わせ、進路保障に必要な措置を申し入れました。

兵庫県の教職員組合と全教の代表は同日、日本共産党国

会議員団にも協力を申し入れました。これには橋本敦彦院議員（党国会議員団震災対策本部副本部長、山原健二郎衆院議員秘書が応対。橋本議員は「要請が実現できるよう早急に文部大臣に申し入れた」とこたえ、激励しました。